

< 植生詳細調査 >

【目的】 中長期的な影響及び植生の回復状況を把握・評価するため
 * 第1期計画期間においては、**植生指標種の選定**と今後比較するための**基礎データの取得**を目的に実施。

低層湿原	高層湿原	湿地林	広葉樹林
エゾノレンリソウ ヌマドジョウツツナギ ナガボノワレモコウ カラフトノダイオウ ホソバノヨツバムグラ イワノガリヤス ナガバツメクサ ヒメシダ ハンゴンソウ	カラフトイソツツジ チシマガリヤス ミズオトギリ ホロムイソゲ イッポンスゲ ヨシ	オオバセンキュウ ヤナギトラノオ ニッコウシダ ホザキシモツケ イワノガリヤス ヨシ	<共通> ミヤコザサ カラマツソウ属 木本類雑樹 <地区別> アキタブキ (茅沼) ホザキシモツケ (茅沼) キツリフネ (キラコタン/宮島) オオアマドコロ (キラコタン) ツリフネソウ (宮島) エゾイラクサ (宮島) アザミ属 (宮島/北斗) エンレイソウ属 (宮島、北斗)

* R3年度調査結果詳細については、別紙参照

< 簡易調査 (採食圧調査) >

【目的】 短期的な採食圧を定量的に把握・評価するため
 ・食痕指標種

低層湿原	高層湿原	湿地林	広葉樹林
アキノウナギツカミ ミゾソバ ヤナギトラノオ	サワギキョウ タチギボウシ ミヤマアキノキリンソウ ヤナギトラノオ	アキノウナギツカミ ミゾソバ ヤナギトラノオ	カラマツソウ属 (ハルカラマツを除く) オオヨモギ アザミ属 キツリフネ

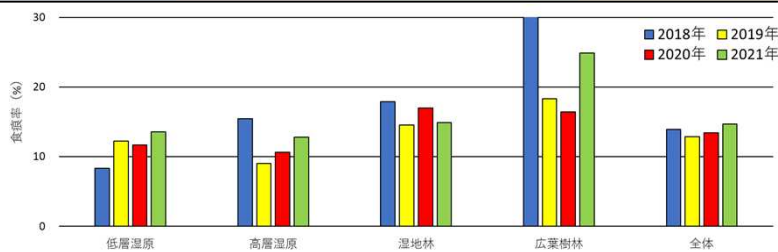


図1. 各植生タイプ毎の食痕率の推移 (2018~2021年度)

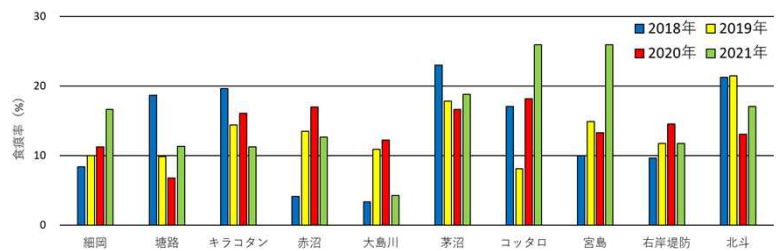
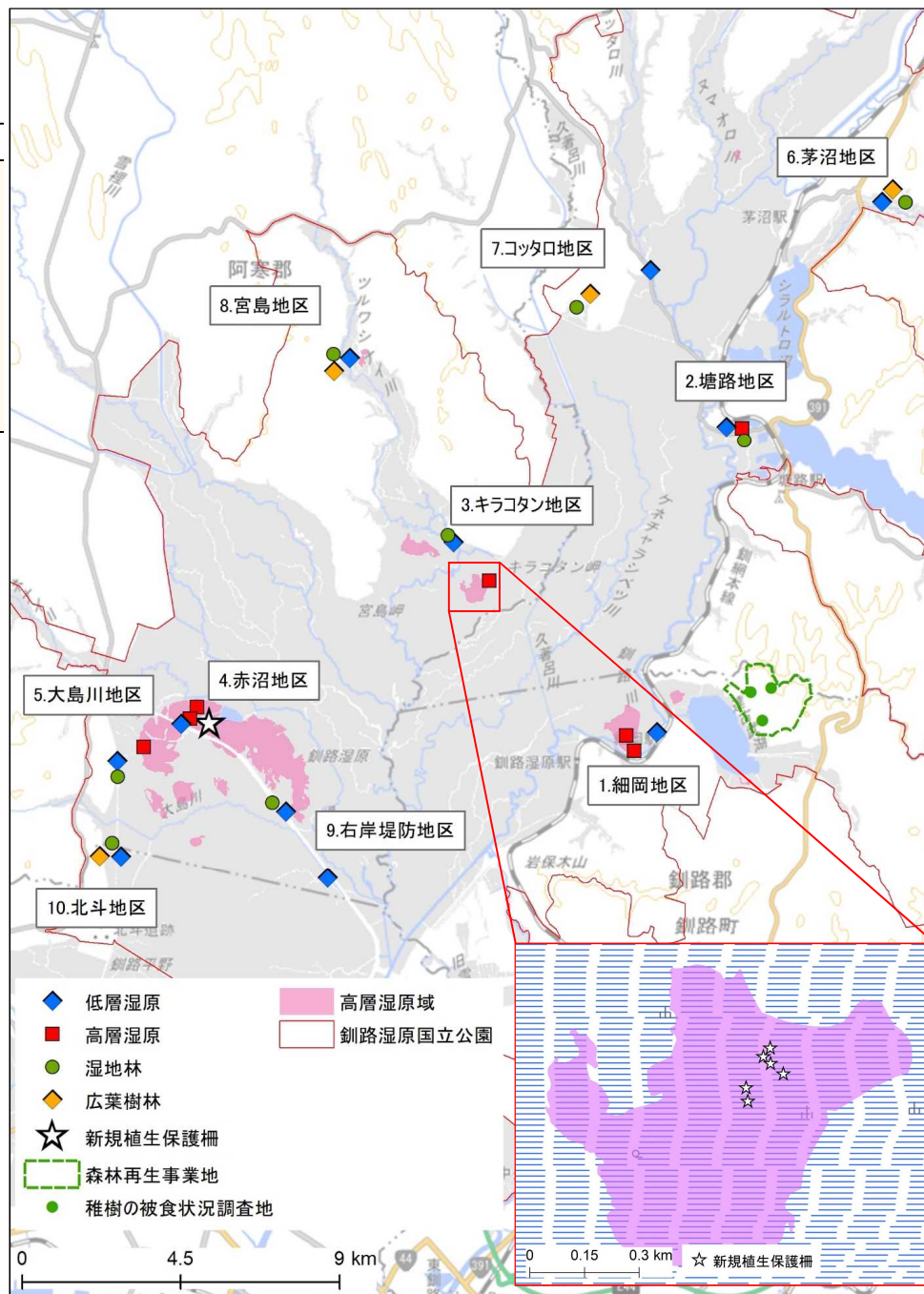


図2. 各調査区毎の食痕率の推移 (2018~2021年度)

【評価】
 ・塘路地区の高層湿原と湿地林は第1回検討会議で述べられた意見と同様に、2018年度に比べ被害が小さくなっている
 ・赤沼地区の高層湿原は2調査区とも2018年度に比べて被害が大きくなっており、対策の必要性が高い
 * 一般化線形モデル (GLM) を用いて、各植生タイプの調査区毎に結果解析及び評価 (別紙参照)



< 植生保護柵の設置 >

2019年度の植生調査及び冬期調査の結果、高層湿原において急激にエゾシカの影響が強くなってきたことが有識者から指摘された。

【キラコタン地区 (2020年10月整備)】
 2020年度の有識者との現地調査等を踏まえ、特に緊急的対応が必要とされたため、植生保護柵を6基 (1基: 4m×4m×2m) 設置。



図3. キラコタン地区の植生保護柵

【赤沼地区 (2022年度設置予定)】
 2020~2021年度の有識者との現地調査等を踏まえ、特に三日月沼周辺の池塘群を含めた植生の保護対策の必要性が指摘され、植生保護柵1基 (総延長約60m) を設計中。2022年度に設置予定。
 ※大島川地区はシカの影響はあるものの、現状からは緊急的な対策の必要性は低い。

< 森林再生事業による調査 >

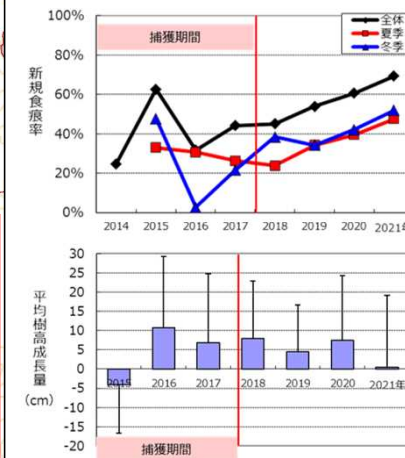


図4. エゾシカによる稚樹被食状況 (柵外)

・新規食痕率は捕獲休止後 (2018年) から夏季・冬季ともに増加傾向。
 ・平均樹高成長量は2016年からプラスに転じたものの、2021年にほぼゼロとなり、成長のばらつきが大きく、現状のシカ影響では新たな稚樹が育たない状況と推察。